

翌3日(水)から5日(金)の午後にかけて50近くのセッションで研究報告会が開催されて約200件以上の報告がなされるとともに、5つのコンペティションのセッションで大学院生等の若手研究者による報告が行われた。学問分野の性格上、人口に関連する報告は少なくなかったが、直接関連するものは以下の「統計調査」セッションで行われた。

「統計調査」 座長：美添泰人(青山学院大学)

- |                               |                      |
|-------------------------------|----------------------|
| 1 企業・事業所を調査客体とする統計調査結果の精度について | 山田 茂(国士舘大学)          |
| 2 国民生活基礎調査標本誤差推定へのリサンプリング法の応用 | 石井 太(厚生労働省)          |
|                               | 鈴木健二(厚生労働省)          |
|                               | 西郷 浩(早稲田大学)          |
| 3 有限母集団における累積分布関数の推定について      | 樋田 勉(群馬大学)           |
| 4 国勢調査における外国人人口の「調査漏れ」        | 小島 宏(国立社会保障・人口問題研究所) |
| 5 労働力調査の都道府県別結果の標本誤差について      | 石井 達男(総務省統計研修所)      |

なお、2004年度連合大会は9月3(金)～6日(月)に花巻市の富士大学で開催される予定である。  
(小島 宏記)

## 日本建築学会2003年度大会(東海)

日本建築学会2003年度大会(東海)は、2003年9月5日(金)～7日(日)の3日間にわたり、愛知県春日井市の中部大学を主会場として開催された。大会は「持続と循環：地球、地域、建築そして生命」をテーマとし、いずれも多数の学術講演や研究協議会、パネルディスカッション等が開催され、活発な議論が行われた。また、主会場のほか名古屋市内などでもシンポジウム等の各種記念行事が催され、市民を含めた多くの参加者を集めていた。

「人口」や「世帯」を直接の分析対象とする報告は多くはないが、都市計画や建築経済・住宅問題部門を中心に関連する興味深い報告があった。近年、高齢者と家族とのサポート関係と居住関係との関連を扱う報告が増えているが、建築経済・住宅問題部門では「家族と高齢者」というセッションが設けられ、高齢者の世帯変動、居住移動、ネットワーク居住などについて、親と子の居住関係を中心とした分析の報告が行われた。筆者はこのセッションにおいて、高齢期の世帯の変動に関する報告を行った。ライフスタイルの変化・多様化や近く到来する人口減少時代を睨んで、都市・建築計画分野では、都心や地方都市の再生はもとより、地域施設や住宅、住まい方の再編も大きなテーマとなっており、さまざまな取り組みが行われている。限られた時間ではあったが、有益な知見を得る機会となった。  
(小山泰代記)

## 第13回日本家族社会学会大会

日本家族社会学会(会長：石原邦雄・東京都立教授)の第13回大会(大会実行委員長：畠中宗一・大阪市立大学教授)が2003年9月6日(土)～7日(日)の2日間にわたって大阪市の大阪市立大学で開かれた。初日の午前から2日目の午前にかけて2コマにおける4つのテーマセッションを含む12のセッションで40以上の研究報告がなされ、2日目の午後には『現代社会における家族ならびに結

婚の意味を問う』パートⅡ 現代社会における結婚の意味を問う」と題されたシンポジウムが行われた。学問分野の性格上、人口に関連する報告は多かったが、日本人口学会会員によるものとしてはテーマセッションを含むそれぞれ別のセッションで以下の5報告があり、シンポジウムでは落合恵美子会員が「歴史的に見た日本の結婚」と題する報告を行った。

日本と韓国のシルバー人材活用—派遣事業から創業支援まで— 山地久美子（神戸大学大学院）  
シンガポールにおける出生・家族政策と出生力の関係 小島 宏（国立社会保障・人口問題研究所）  
「直系家族制から夫婦家族制へ」は本当か（テーマセッション A、

戦後日本の家族変動—「戦後日本の家族の歩み」調査から— 加藤彰彦（帝京大学）  
社会的ネットワークの構造と力—育児におけるネットワークのサポート効果  
松田茂樹（第一生命経済研究所）

現代女性の離家規定要因—『消費生活に関するパネルデータ』を用いた分析—  
福田節也（明治大学大学院）

なお、2004年大会は清水浩昭会員により9月11日（土）～12日（日）に日本大学文理学部で開催される予定である。

（小島 宏記）

## 環境科学会2003年会

社団法人環境科学会2003年会は、2003年9月11日（木）・12日（金）、東京大学駒場キャンパスにおいて開催され、一般講演、シンポジウム、ポスターセッションが行われた。

一般講演のうち人口学的観点から特に興味深いものとしては次の3つがあげられる（発表順、○印は発表者）。

「化学工業原料およびエネルギー資源としてのバイオマスの供給可能性のモデル分析」

○棟居洋介（東京工業大学大学院）

「GISおよびデータマイニングを用いた呼吸器系疾患の環境リスク要因解明に関する研究」

○安納住子（芝浦工業大学）

「国際交易と土地利用変化」

○松村寛一郎（関西学院大学）・Guoxin TAN・柴崎亮介

棟居氏、松村氏の発表は、それぞれバイオマス、食料についての分析であり、いずれも将来の人口をシナリオとする世界モデルを用いたものであったが、後者では都市人口のシナリオにも注意が払われていた。安納氏は、研究対象地域（東京都心）をセルで分割することによって、呼吸器系疾患の患者の空間的な分布をデータ化し、環境要因との関係を探っていた。

また、これらの一般講演のそれぞれについて質疑応答が行われた。（今井博之記）

## アジア HIV 流行モデルを用いた政策分析ワークショップ

タイ国保健省、米国東西センター、家族保健インターナショナル（FHI）によって開催された「ア